

事業の概況

事業の経過

創業6期目にあたる当期は、プロミス株式会社との提携による新型ローン商品、日本中央競馬会（JRA）を始めとする公営競技の即時投票サービス、外国為替保証金取引（JNB-FX）など、新しい商品・サービスを投入する一方、個人情報保護への取組みやスパイウェアを始めとするネット上の脅威に対するセキュリティ強化策を進めてまいりました。またヤフー株式会社、株式会社三井住友銀行との3社による戦略的業務・資本提携の検討を進め、3月に合意し、公表いたしました。

顧客基盤の拡大

顧客基盤を拡大するため、サービス・利便性の向上を図り、有力ネット企業や公営競技との提携に注力したほか、急拡大するSOHO市場をターゲットに中小法人や営業性個人向け口座であるビジネスアカウントの推進に引き続き注力いたしました。その結果、普通預金口座数は期中29万口座増加し、期末は135万口座となりました。そのうちビジネスアカウントは期中11千口座増加し、期末は27千口座となりました。

利便性の向上・新サービス

2005年4月にアイワイバンク銀行（現セブン銀行）とのATM提携を開始しました。利用可能な地域の拡大、ATM台数の増加により、入出金取引の利便性が大きく高まりました。2005年10月には、Webサイトを全面刷新いたしました。お客さまが必要な情報を短時間で効率よく入手できるように、レイアウトを見直し、表示速度を改善させたほか、CSR（企業の社会的責任）の観点から音声ブラウザでのご利用も考慮した対応を実施しました。また2006年3月には、銀行として初めて外国為替保証金取引「JNB-FX」を開始しました。インターネット専業銀行としての特性を活かし、便利で安心して利用できるサービスを提供してまいります。

ネット決済機能の拡充

本年度は、既に競艇・競輪において好評を得ている公営競技の即時投票サービスの提携先拡大に注力しました。2005年5月に南関東4競馬場、2005年6月に日本中央競馬会（JRA）、2005年10月には地方競馬のインターネット投票（D-net）との提携サービスを開始し、日本国内のすべての競馬投票に、土日でも投票資金や配当金の入出金が随時可能な利便性の高い決済スキームを提供することができました。XMLを活用した即時決済スキームの提携先は、プロミス株式会社を始めとする消費者金融やクレジット会社などにも拡大し、利用シーンが広がりました。

ローン・市場運用

個人向けローンにつきましては、2005年3月に開始したプロミス株式会社との保証提携によるローン残高積上げに努めました。2005年12月には「借り入れおまとめローン」を開始し、複数の借り入れを一本化するニーズの取り込みを図りました。市場運用につきましては、日銀の量的緩和解除を見据えて、今後の長期金利上昇に対する耐性を高めるため、運用調達構成の見直しを行いました。コールマネー等による調達額を減少させる一方、変動利付国債は、2005年12月以降の相場急落で評価損失が拡大したことから、売却により残高を圧縮し、中短期債へのシフトを進めました。